





会議等結果報告書		報告者	平成22年6月3日 主査 西山慎太郎 
決 裁 欄	理事兼事務局長  次長兼 総務部長  		
件 名	平成22年度 第3回芸大施設整備委員会		
日 時	平成22年6月2日（水）午後6時15分から午後7時15分まで		
場 所	芸術大学 3階 大会議室		
参 加 者	芸術大学 長谷美術学部長、戸山音楽学部長 始め13名 管理課 竹内事務局長、大久保課長、高瀬主任主査、桜井主任 法人本部事務局 山田総務部長、田口課長、西山主査		
内 容			
<p>○ 要点</p> <p>1. 奥村氏からの質問等対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長谷学部長より、月曜日に奥村氏等と面談したことについて報告があった。 ・事務局より、奥村氏のグループからの質問に対する回答案について、文章から箇条書きとした旨説明があった。 ・委員から、回答案の一部について、表現が不十分で誤解を招くおそれがある部分があるため、再度確認することとなった。 <p>2. キャンパス整備検討委員会の設置について</p> <p>長谷学部長より、以下のとおり説明がなされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、法人及び大学の3者により検討作業を進めていくこととなった。検討に当たっては、外部の意見を取り入れるために検討委員会（仮称）を設置することが考えられている。検討委員会（仮称）には、奥村氏のグループ、日本建築学会、Docomomo、同窓会、後援会、学生自治会など外部の者からなる構成を考えている。構成員については、現在県と法人で調整中。 ・施設整備の検討状況については、全教員への周知が必要。 → 6月10日（木）に教授会の間（昼）の時間を使って、これまでの経緯、現状等を説明することとなった。 <p>3. その他</p> <p>(1) アンケート（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業評価で施設に関する項目の意見をまとめたもの、また、1～2年前に実施した学生生活アンケートの結果があるので、その内容を検討した上で、施設整備委員会が主体となって作成、実施することとなった。 <p>(2) 他大学視察について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月28日（月）、7月9日（金）、<u>7月12日（月）</u>で調整することとなった。 <p>※ 次回は、6月16日（水）18時から。</p> <p>※ 詳細は以下の「会議内容」のとおり。</p>			

○ 会議内容

【長谷学部長】

・「1」について

5月31日(月)に奥村氏昭雄氏、永橋為成氏を含めた数人と面談した。

奥村氏は、新音楽学部棟が20年3月に作成された図面どおりの位置に建築されることから、その他の施設についても図面どおり順番に全面改築され、全部が取り壊されてしまうとの印象を持っていた。

この点については、20年3月の図面は、全面改築を前提とした場合にどのくらいの面積が必要となり、その面積に対する単価から工事費の総額がどのくらいかかるのかを算出するためのものであり(ボリュームモデル)、図面の建物位置は、単純に算出された面積を基に四角い箱を仮に置いたに過ぎないものであることを説明した。

その結果、お互いの認識のズレが修正され奥村氏の理解は得られた。ただし、図面と新音楽学部棟の計画からすると誰が見ても同じような印象を持つので、図面を出すならそうした情報についてもしっかりと出すべきである旨の意見があった。

また、個人的な考え方を聞かれたため、講義棟、図書館、芸術資料館(奏楽堂については微妙であること)の縦軸の建物は、残していくことであればよいと考えている旨話をした。

・「2」について

県の意向・方針として、県、法人、大学の3者で構成するプロジェクトチームで検討作業を進めていくことになった。その検討に当たっては、外部(奥村氏のグループ、日本建築学会、Docomomo、谷口先生などの建築家などと同窓会、後援会、学生自治会)の者を含めた検討会議(仮称)を別に設置し、外部の意見を取り入れながら検討することを考えている。

構成員については、県と法人で調整中であるが、県の建築関係の部署からもメンバーを出して欲しい旨要望したい。

・「3」(1)について

いろんな意見を聞いていくためのひとつの手段としてアンケートを実施することを予定している。アンケート案のたたき台を事務局(法人)が作成したので検討する。

アンケートとしては、これまでも事業評価や自治会で実施したものがある。それらの結果がまとめられているのであれば、それらも活用する。

(「1」について)

【山先生】

回答案について、音楽学部では授業等をしながら既存施設を改修していくことは不可能である旨の記載が見当たらない。音楽学部棟を新たに建設することとした理由に関わることであるのでしっかりと書いておいて欲しい。

【白河先生】

理事長あて質問項目5)に対する回答の一つ目の文章の意図がよく分からないため、削除した方がよい。

【白河先生】

理事長あて提案項目10)に対する回答で、「別用途での利用の希望がない」と書いているが全くないわけではない。博士課程のアトリエとしての希望があった。

【長谷学部長】

取り壊すこととなったのは、希望がなかったわけではなく、また同じ項目の備考

欄に書いてあるようにただ単に福利厚生施設だからという理由でもない。確かに学生寮はアトリエとして不適であったが、サロン部分は可能性があった。ただし、サロン部分は耐震結果がBランクであり、使用を続けるには耐震工事が必要となること、県では予算措置されないということであったため、断念したものである。

【白河先生】

同じ備考欄で「福利厚生施設」と「居住施設」と書きぶりが違う理由は何か。内部の他の先生も見るとのものであるので、使用し続ける可能性があったかのような書きぶりは誤解を招くため直したほうがよい。

【水谷先生】

教職員寮を芸術学科で利用しているのは、プレハブの予算がつかなかったため、あくまでも臨時で使うことになったものである。転用により解決したというものではない。決してその環境で十分という話ではないということを、事実、経緯を踏まえて分かるように書いて欲しい。

【長谷学部長】

誤解がないように記載内容を確認する。

(「2」について)

【白河先生】

外部の方を交えながら検討するということが、検討結果を待って施設整備委員会で検討を始めることになると、スケジュールに影響が及ぶことにならないか。

【長谷学部長】

翌年度の予算要求もあるため、8月末までに残す建物と残さない建物を分ける作業を完了し、来年3月までに検討案をまとめるというスケジュールに変わりはない。

【白河先生】

それぞれの組織の相互の関係がよく分からない。

【長谷学部長】

外部の方を交えた検討会議(仮称)は、県、法人及び大学3者による検討を進めるにあたっての意見をもらう場。外部の意見を踏まえた県、法人及び大学3者による検討結果が施設整備委員会にあがってくることになる。施設整備委員会がピラミッドの頂点に位置づけられるものである。

【白河先生】

検討結果を待たずして施設整備委員会で別個に検討を進めても影響はないということか。

【長谷学部長】

そのとおり。また、方針を適宜情報公開していくことで理解が進み、それに対する具体的なアドバイスも出てくると思う。

【白河先生】

当方が情報公開しようとしても、県が出すことを了承するか。

【山田法人本部次長】

具体的な内容であれば出せないと思うが、大まかな、ゾーンのものを検討するので、県と調整しながらとなると思うが出していく。

【長谷学部長】

外部の方を交えて検討することになると、会議進行のハンドリング、資料作成、検討のための材料を探したりするのにそれなりの能力が必要となる。こうした能力がないと会議の運営が成り立たなくなるため、こうした能力を持ち会議をマネジメントするコンサルタントが必要となるが、これは法人で措置してもらえる。先生たちが図面を書いたりすることはない。

(「3」について)

【掛谷 先生】

アンケート(案)の2番目の音楽学部棟については、どの建物のことを指しているのか学生にとっては分かりづらく、紛らわしい。

【白河 先生】

全体として、こちら側の事情ばかりを問う内容であり、学生が見て分かるアンケートとなっていない。3番目のそれぞれの建物についても、学生はどこ建物のことを言っているのかわからないと思う。地図をつけた方がよい。

【格斗 先生】

陶磁棟がない。新しい建物ということは分かるが、学生が見たときの印象を気にした方がよい。

【細川先生】

4番目もこちらの思いが強く現れているが…。学生に対してのアンケートであれば、もっとシンプルにした方が良く、また自由に意見を言えるように、理由欄のスペースを大きくした方がよい。

【戸山 先生】

3番目のメリット・デメリット表について、「改修より費用がかかる」ということが書かれているが、学生にとっては関係のないこと。費用がかかろうが良くして欲しいと思っている。この表は削除したほうがよい。

【白河 先生】

誰主体となって、どういう目的で行うのかが分からない。それを説明しておく必要がある。

【田口総務課長】

基本的に大学が、学生の意見を把握するために行うもの。先生方や同窓会をも対象とすることを考えている。

【福本 先生】

同窓会に依頼する場合には、施設の現状を知らないなので、内容を変えないといけない。

【戸山 先生】

大学が学生を対象に実施するのであれば、「どういうときに不具合を感じるのか」というような内容にした方がよい。

【白河 先生】

そのようなアンケートはこれまでも実施している。学生にとっては「またか。」という印象しかもたれない。これまでの結果を集計し、把握しきれていない部分を問うようにしたほうがよい。

【長谷学部長】

アンケートは整備委員会が主体となってやる。内容は、今まで実施したものを集計し、データを集約した上で検討することとする。

以 上